

1 1株当たり当期純利益(EPS)

ここからは株式を評価するときの尺度として代表的な指標を学んでいきます。まず最初は「1株当たり当期純利益」です。これは当期純利益を発行済み株式数で割ったもので、EPS (Earning Per Share)と呼ばれています。

$$1 \text{株当たり当期純利益(EPS)} = \frac{\text{当期純利益}}{\text{発行済み株式数}}$$

たとえば当期純利益が3億円で発行済み株式が300万株の場合、EPSは3億円÷300万株=100円になり、数値が高いほど投資効率が高いと考えられます。業績を見る時の指標としては最も基本的なもので、手っ取り早く会社のよしあしを判断するには、この数値を利用するのがお勧めです。

当期純利益は大きく変動する可能性もありますし、同じであっても株式分割等で株式数が増えれば1株当たりの利益は下がってしまいます。そこでEPSは目先の1期だけでなく、時系列に沿ってチェックしていくことが大切です。EPSの動きが大きい場合、株価も大きく変動していくのが一般的で、EPSの数値がブレないで推移している企業であれば、堅実経営を行っている安定した会社であるといえます。

2 株価収益率(PER)

1株当たりの利益と株価の関係を表す投資指標に株価収益率があります。これは株価を1株当たり当期純利益(EPS)で割ったもので、PER (Price Earning Ratio)と呼ばれています。

$$\text{株価収益率(PER)} = \frac{\text{株 価}}{1 \text{株当たり当期純利益(EPS)}}$$

たとえば株価が2,000円でEPSが500円の場合、PERは2,000円÷500円=4となり、株価がEPSの4倍の価格で売買されていることを表します。このPERの倍率が高いほど、利益に比べて株価が割高であることを示し、逆に低いほど割安といわれています。つまりPERは企業の人気のバロメーターで、PERが高いことは企業の成長への期待が高いということになりますが、反面、過大評価されていることも意味します。またPERは1株当たり当期純利益との相関関係を示すもので、その期だけ特別利益などによって利益が膨らんだ場合、例外的にPERは低くなります。したがって過去のPERを見ていくことも必要ですし、あわせて同業他社のPERもチェックし、業種全体の数値の動きと投資したいと考えている企業の数値の動きも比較しましょう。全体を見回すことで、業種の中での企業の位置づけや株価本来の価値が確かめられます。